

INDEX

第27回日本教育工学会全国大会を迎えて.....	2
日本教育工学会 第27回全国大会のお知らせ（最終報）.....	2
2011年度 シンポジウム報告.....	4
冬の合宿研究会（第一報）.....	6
日本教育工学会研究会 研究会の発表募集1.....	7
日本教育工学研究会 研究会の発表募集2.....	7
日本教育工学研究会 研究会の開催報告.....	7
日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集.....	8
「特集：大学教育の改善・FD」のご案内（第2報）	
第27回通常総会・議事録.....	9
第13期第17回 / 第14期第1回理事・評議員会（合同）議事録.....	10
第14期第2回理事会・議事録.....	10
新入会員.....	11

第 27 回日本教育工学会全国大会を迎えて

会長 永野和男（聖心女子大学）

第 27 回日本教育工学会全国大会を首都大学東京で開催できますことを、皆様とともに喜びたいと思います。

今年は、3 月 11 日に東日本大震災が起こりました。あれから数カ月がたちました。被災地への教育支援はこれからますます必要となり、長期化します。そこで、本大会では、教育工学の力を被災者の今後の教育支援に活かすには、何ができるかを皆で考え、提案する特別企画が立ち上がりました。学会会場に、テーマに分かれないいくつかのパネルを用意します。教育工学研究者としてこの問題にどのように貢献できるか、皆様の体験やアイデアを提言してください。今後の活動に生かしていきたいと思います。

一方、震災は、「3 月 11 日以後」という言葉を作り出したように、人の命、個人の幸福や生き方、社会の在り方に大きな意識変革を投げかけたように思います。私たち研究者にとっては、現実的な問題の本質を見つめ直すこと、研究をどのように進め実践に結び付けていくか、研究の成果をどのように共有し誠実に公表していくべきかを考えることなど、あらためて見直すきっかけとなりました。そもそも、教育工学は、問題解決のための知見や方法、道具、仕組みを提供できる学問として立ち上がりました。会員は、あらゆる分野の研究者や実践家が参加しています。未来の問題を予見した新しい技術の開発も大いに求められる一方、「3 月 11 日以後」を深くかみしめた、継続的で貢献的な研究活動が、求められていることも忘れてはなりません。全国大会に参加して、自分の研究を見直すとともに、これからの社会に私たちの研究活動がどう貢献できるか、また、私たちのできることは何なのか、振り返る機会になればと思っています。

最後に、大会を企画・準備し実行していただいた大会企画委員会の方々、会場を提供していただいた首都大学東京と大会実行委員会の方々、協賛や展示で協力いただいた企業の方々にも、心から感謝申し上げます。

日本教育工学会 第 27 回全国大会のお知らせ（最終報）

大会 Web ページ：<http://www.jset.gr.jp/taikai27/>

日本教育工学会第 27 回全国大会を、首都大学東京 南大沢キャンパスにおいて開催します。合計 442 件（シンポジウム 13 件、一般研究 376 件（うちポスター 113 件）、課題研究 43 件、インターナショナルセッション 10 件）の発表と、ワークショップ 10 件が予定されています。多くの方々のご参加をお待ちしています。詳細は、大会 Web ページ、本ニューズレターに同封されております参加案内（プログラム）をご覧ください。

1. 開催期日・会場

期日：2011 年 09 月 17 日（土）～19 日（月）（3 日間）

会場：首都大学東京 南大沢キャンパス 〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

京王相模原線「南大沢」駅、改札口から徒歩 5 分

<http://www.tmu.ac.jp/access.html>

- ・大会期間中の緊急連絡先は、Web ページにてアナウンスします。
- ・自家用車によるご来場はご遠慮下さいますよう、ご協力お願い申し上げます。

後援：文部科学省、東京都教育委員会

2. 大会日程

第1日 09月17日(土)	第2日 09月18日(日)	第3日 09月19日(月)
09:00～17:00 受付 10:00～12:00 一般研究発表1 (口頭発表) 12:00～13:30 昼食, 各種委員会 企業展示 13:30～15:30 シンポジウム1 15:50～17:50 一般研究発表2 (口頭発表) International Session (1) 18:00～19:30 ワークショップ	09:00～17:00 受付 09:30～11:30 一般研究発表3 (口頭発表) International Session (2) 11:40～12:50 一般研究発表3 (ポスター発表) 12:50～14:20 昼食・理事会 企業展示 14:20～15:40 全体会 (特別講演, 会長講演, 表彰) 15:45～18:15 シンポジウム2 18:30～20:30 懇親会	09:00～15:00 受付 09:30～11:50 一般研究発表4 (口頭発表) 12:00～13:10 一般研究発表4 (ポスター発表) 13:10～14:30 昼食・ 大会企画委員会 14:30～17:00 課題研究発表
09:30～18:00 企業展示	09:00～15:45 企業展示	
* プログラム編成によっては, 時間帯が若干変わることもあります. * 企業展示が第1日目, 第2日目に開催されます. 特に昼休みには, ぜひ見学にお立ち寄り下さい. * 大会期間中, 昼食の時間帯に生協食堂が営業される予定です(無線LANを設置予定). どうぞご利用下さい		

3. 全体会について

2日目の全体会では, 特別講演, 会長講演, 論文賞および研究奨励賞の表彰等があります.

- ・ 特別講演: 上野 淳 (首都大学東京 副学長)
「東日本大震災と避難所となった学校, その地域社会に対して果たした役割」
- ・ 会長講演: 永野和男 (聖心女子大学 教授)
「教育工学研究が社会に果たすべき役割」
- ・ 論文賞, 研究奨励賞の表彰

4. 服装について

今年は節電のために, 発表会場の温度が28度程度に設定されます. そのため, 発表者ならびに参加者の服装は, クール・ビズを推奨します.

なお, 大会当日のスタッフは, クール・ビズ対応の一環として, 大会用Tシャツ等を着用することになりましたので, よろしく願いいたします

5. 被災地への教育支援の提案・検討について

大会開催時には3月11日の震災から6ヶ月がすぎております. 被災地の教育支援はこれからますます本格化し, そして長期にわたり継続していかなければなりません. そこで, 第27回全国大会の大会企画委員会では, 教育工学の力を被災者の今後の教育支援に活かすには, 何ができるかを皆で考え, 提案していきたいと思っています.

学会会場に, テーマに分かれたいくつかのパネルを用意します. 教育工学研究者として, これからの社会にどのように貢献できるか, 今後どのように支援を続けていくか, 皆様の体験やアイデアを付箋紙に書いて, パネルに貼って頂きたいと思えます. また, 懇親会では, 被災地の教育支援を考えるコミュニケーションコーナーを設置します. 皆様から出されたアイデアが貼られたパネルをその場所に移動します. 皆でそれを共有し議論が進むことを期待しています. なお, 議論が進むように, 写真や関連資料をお持ち頂くことも歓迎いたします.

大会企画委員会では, その結果をなんらかの形でまとめ, 学会として実行すべき点は, 理事会等で実現に向けて検討していきたいと思えます. また, 大会として今後長期に検討していかなければならないテーマについては, 次回大会以降のシンポジウムや課題研究のテーマに取り上げていくことを考えています. どうぞ, ご協力よろしく願い申し上げます.

6. 託児室の利用について

本大会での初めての試みとして, 託児室を提供します. 事前申込制で, 料金は, 子供一人1時間あたり800円程度の自己負担をして頂く予定にしています. 詳細は, 大会Webページをご覧ください.

7. 大会当日の受付について

★参加登録者の方は、電子メールで送られた「大会参加票」等をプリントしてお持ち下さい。

①事前送金済みの場合

- ・電子メールでお送りした「大会参加票」を、大会受付の「事前送金済参加者」窓口でお渡し下さい。電子メールの件名は「大会管理より受付番号を発行しました」となっています。
- ・お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・プリントして持参していただいた「大会参加票（名札用）」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・大会参加票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしておいてください。
- ・大会参加票を持参されなかった方は、「当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上「事前送金済参加者」窓口にて、その旨、お申し出ください。
- ・送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合は、「総合受付」でお受けします。

②当日参加の場合

- ・当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ・ただし、学会ホームページから参加登録を行った会員は、自動送信されたメールをプリントしてお持ちください。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- ・お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れてください。
- ・懇親会費を支払われた場合は、名札にマークを貼らせていただきます。
- ・大会当日に参加費等をお支払いの方は、おつりが出ないようにご準備下さい。

2011 年度 シンポジウム報告

2011年06月18日（土）13:00 から、東京工業大学大岡山キャンパスのデジタル多目的ホールを会場として、日本教育工学会2011年度のシンポジウムが開催されました。今回は、木原俊行氏（大阪教育大学）の司会のもと、「21世紀型スキルと教育工学」というテーマで、基調講演とパネルディスカッションが行われました。例年とは異なり、午後のみで開催となりましたが、100名の参加者を得ることができました。

【基調講演】

清水康敬氏（東京工業大学）による基調講演は、まず、講演の背景として、生まれた時からネットワークを介して情報を得られる環境にいるデジタル・ネイティブと、その過渡期を生きているデジタル・イミグラントの存在について説明がなされました。また、保護者への調査結果から、「正しい情報が選択できない」「人間同士のコミュニケーションが希薄になる」と回答した割合が1年間で増加している旨報告がなされました。次に、21世紀型スキルについて説明がなされました。米国では、2003年に **The MILE (Milestone for Improving Learning and Education) Guide** が公表されました。現在、各州では実践段階にあり、子どもたちに必要とされるスキルについて各教科・学年ごとにまとめたガイドブックが州ごとに編纂されているとのことでした。また、NETP (National Education Technology Plan 2010) 2010 が発表され、学習・評価・指導・基盤設備・生産性の5つの柱について、2015年までに目標を達成する予定であると紹介がなされました。続いて、「ATC21S」の説明がなされました。2008年1月に21世紀型スキルに関するWGが設置され、思考の方法、仕事の方法、学習ツール、社会生活の4点から21世紀型スキルをとらえているとのことでした。PISAの2012年調査においてATC21Sのスキル評価を実施する可能性があるとのことでした。翻って、日本の情報教育について説明がなされました。情報教育の目標である情報活用能力について、時代の変化への対応や施策の継続性の観点から、情報活用能力を定義し直す必要があると指摘され、学習・啓育・支援の抜本改革を提案されました。なお、「啓育」とは、相手の能力を引き出すという本来のEducationの意味であって、教え込むという意味の「教育」ではないとの説明がありました。最後に、世界の21世紀型スキルを参考に、日本が求める能力を考えていく必要があると提言なさいました。その際には、教育工学的な視点から考える必要があること、そして、次期学習指導要領改訂に向けたアクションプランを提案することが重要だとまとめられました。



【パネルディスカッション】

基調講演の後、若手研究者 4 名が登壇し、まずは基調講演に対する質疑応答がなされました。椿本弥生氏（公立はこだて未来大学）は、大学入試が教育方針を規定している現状や、初等・中等教育でコンピュータを使って文章を作成することの悪影響について質問をしました。村上正行氏（京都外国語大学）は、デジタル・イミгранト（保護者）を対象とした調査結果と、デジタル・ネイティブ（子ども）の実態とのミスマッチの可能性を指摘しました。稲垣忠氏（東北学院大学）は、21 世紀型スキルを主要科目に導入した場合の授業イメージや、21 世紀型スキルと情報教育の求める力との関連、そして「学習ツール」という訳語に込められた意味について質問をしました。望月俊男氏（専修大学）は、スキルに関する議論を通して得られた系統性や積み重ねに関する質問をしました。それぞれの質問に清水氏が回答した後、21 世紀型スキルと教育工学研究の接点を探ることを目的とし、各登壇者から話題提供がなされました。

椿本氏は「思考の方法」の観点から、初等・中等・高等教育の言語教育における ICT 利用の研究が必要であることを指摘し、批判的読解と対話的意見産出を支援するシステムである「eJournalPlus」について、その概要と評価について話題提供を行いました。さらに、ライティングセンター（Texas A&M University）における学習能力・メタ認知能力の育成の事例を紹介しました。

望月氏は「コラボレーション」の観点から、教育工学ができることは、他者や状況を慮るような学習環境を提供するテクノロジーのデザインと、グローバルで、多様な環境の中で互いに支え合いながら学ぶ共同体を作るような学習活動のデザインの 2 つであると述べました。そして、高等教育におけるグループ（クラス）の協調活動を支援するため、高等教育向けWebグループウェアである「ProBo」、携帯電話上で動く「ProBoPortable」、So-net SNS（OpenPNE）を用いた実践を紹介しました。

稲垣氏は「学習ツール」の観点から話題提供を行いました。まず、情報リテラシーに関する取り組みとして、NHK 学校放送番組の番組視聴シートの開発を行う実践を紹介しました。次に、ICT リテラシーに関する取り組みとして、フューチャースクールにおける児童の ICT 活用場面を類型化する研究を紹介しました。また、複雑な情報や多様な情報へのアクセスのための「情報活用型授業」や、授業デザインの整理と児童に必要なリテラシーの明確化が必要であると指摘しました。

村上氏は「多文化共生」の観点から、異文化を持つ他者を意識し、交流を通して自国の文化を理解する必要があるとして、京都外国語大学で行われた 2 つの実践を紹介しました。一つは、文化の「翻案」をコンセプトに 7 言語で京都の観光情報をWebにより海外に発信する「京都研究プロジェクト」、もう一つは、日本語を学ぶ香港の大学生に対し、日本語教員を目指す日本の大学生が「日本語教員養成 SNS」上で作文指導実習を行う実践でした。

各登壇者からの話題提供の後、フロアや司会も交えて議論が行われました。「日本が伝統的に尊んできた社会的価値とそれに基づく行動と、ICT を活用したツールや 21 世紀型スキルとの関係性」といった話題や、「本学会が組織的にすべきこと」などの話題について、活発な意見交換が行われました。最後に木原氏により、本学会の研究分野と 21 世紀型スキルとの接点が多く、取り組みの中に新しさと固有の文化を矛盾なく取り入れた枠組みが必要なこと、現在の枠組みから新しいカリキュラムを考えるようなタスクフォースを設定する必要があること、早急に他学会・他国とのコラボレーションが必要なことがまとめとして示されました。

冬の合宿研究会(第一報)

テーマ：国際学会での発表スキルを磨く ー伝わる英語発表ー

英語で論文は書けても、口頭発表となると苦手意識を持っている教育工学研究者は多いようです。国際会議・学会における発表がスムーズに進むかどうかは、単に語学力の問題ではなく、プレゼンテーション自体の進め方や代表的な質問への準備などにもかかっています。本合宿研究会では、論文を元に組み立てる発表の構成、外国の研究者に理解してもらいやすいスライド作成、質疑応答で発表の趣旨を理解してもらう方法などについて、単なるノウハウでなく、プレゼンテーションの理論や英語発表の基本的な考え方から学びます。特に、初めて国際学会で発表しようとしている大学院生や、発表のたびに用意した原稿を読んでもしまうことに終始してしまったり、ぶっつけ本番の質疑応答で苦勞したりしている研究者の参加を歓迎します。

- 期日：2012年02月18日(土) 13:30～19日(日) 12:00
- 会場：大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション
(山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階)
<http://unicon.kj.yamagata-u.ac.jp/modules/pico/index.php/content0288.html>
JRでお越しの場合：JR山形駅東口から徒歩2分
航空機をご利用の場合：山形空港から山形空港ライナーで山形駅まで約30分
仙台方面から：仙台駅前から高速バスで約1時間、山交ビル前下車徒歩3分
- 対象：国際学会における発表をより効果的に行おうとしている研究者・学生
- 定員：30名
- 参加費(予定)：12,000円(1泊2食付き)
宿泊予定ホテル：ホテルコンフォート(研究会会場に隣接)
- プログラム(予定)
02月18日(土)
セッション1： 13:30～15:00 講演：英語発表のポイント(講師依頼中)
セッション2： 15:30～18:30 実習：発表資料の修正・リハーサル
02月19日(日)
セッション3： 09:00～12:00 発表・質疑応答とアドバイス
- 開催担当：松田岳士(山形大学)
- 問い合わせ先：eメール mat@hirc.aoyama.ac.jp
電話：023-628-4981(山形大学教育企画室)

日本教育工学会研究会
<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

研究会の発表募集 1 【テーマ：変動社会における教員養成と教師教育／一般】

- 日 時：2011年10月29日（土） ●会 場：島根大学（担当：深見 俊崇）
●申込締切：2011年08月28日（日） ●原稿提出：2011年09月25日（日）

募集内容：

社会状況や子どもの変化への対応、学力向上への対応など教員に求められる事項が増大しています。そのような状況にあつて、教員の大量退職とそれに伴う経験の浅い教員の大量採用時代の到来も間近に迫り、新任・若手教員への知識・技術の伝承も課題となりつつあります。直面する課題に対応すべく、わが国においては、教職大学院の開設や教職実践演習の導入など制度改革が進む一方、諸外国においては、教員の力量に関するスタンダードの策定が進んでいます。それらの動向を踏まえつつ、変動社会における教員養成・教師教育に関して、議論と情報交換を行いたいと考えております。また、上記テーマにはこだわらない、教育工学一般における発表も幅広く募集いたします。尚、今回の研究会では基礎セミナーを開催いたします。セミナー講師に小柳和喜雄氏をお迎えし、教師教育研究について学んでいきたいと思ひます。

研究会の発表募集 2 【テーマ：地域連携と教育・学習環境／一般】

- 日 時：2011年12月17日（土） ●会 場：香川大学（担当：林 敏浩）
●申込締切：2011年10月16日（日） ●原稿提出：2011年11月06日（日）

募集内容：

詳しくは研究会Webページ (<http://www.jset.gr.jp/study-group/>) をご覧ください。

-
- 会員・非会員を問わず、本研究会は発表を募集します。
 - 申込方法：研究会 Web ページ (<http://www.jset.gr.jp/study-group/>) よりお申し込みください。
 - 原稿執筆：締切後 1 週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。
 - 原稿提出：原稿の提出は PDF 形式で、研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚、期限までに提出いただけない場合は、発表取消となりますのでご注意ください。
-

年間予約購読のお勧め

- 年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで 3,500 円です（当日売りは 1 冊 1,000 円と割高になります）。年間 5 冊、各研究会平均 34 件程度（2010 年度実績）の研究発表が掲載されます。詳しくは、研究会 Web ページをご覧ください。
-

日本教育工学会 研究会の開催報告

- 日 時：2011年07月02日 ●会 場：岐阜大学
●発表件数：16件 ●参加者数：51名

「教える人の実践知・経験知／一般」というテーマで研究会を開催いたしました。この研究会は秋田大学で当初開催する予定でしたが、東北地方太平洋沖地震によるライフライン等の影響を鑑み、本学で急遽開催することになりました。発表件数は例年よりもやや少ない16件でしたが、猛暑の中を51名の方が参加されました。会場では、教師教育に関わる研究、教育活動におけるICT活用をはじめとする実践的研究など、多岐にわたる報告がなされました。今回より質疑応答時間を5分以上とることになりましたが、次の研究活動につながるような質疑応答がなされたセッションもあり、有意義な議論が行われました。また、今回は当学会の編集長である清水康敬先生を講師にお迎えし、「研究成果を学会誌に投稿するためには一論文の書き方」と題したセミナーも開催しました。清水先生にはこれまでの執筆経験をふまえた論文執筆のコツなども披露していただき、熱心にメモをとる参加者の姿が多く見られまし

た。セミナー後半の質疑応答の時間では、清水先生の他、早稲田大学の向後千春先生にも加わっていただき、参加者からの論文執筆に関わる様々な疑問・質問に対して明解な回答や助言を行っていただき、終始熱気につつまれたセミナーとなりました。今後も研究会が研究発表の場だけでなく、会員非会員問わず教育工学を研究する者の学びの場となることを期待しております。最後に、ご参加いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

担当：今井亜湖（岐阜大学）



日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

「特集：大学教育の改善・FD」のご案内（第2報）

2008年から大学においてFD（Faculty Development）が義務化を背景として、大学における教育・授業改善の取り組みがクローズアップされるようになってきています。ただ、大学教育やFDに関する研究についてはまだまだ蓄積が少ないのが現状であり、今後、大学教育の改善やFDにおける教育工学の役割がより重要になってくると考えられます。

そこで、本論文特集号では、大学教育の改善やFDに関する研究論文を募集します。また、各大学で実施されている教育改善の実践を教育実践研究論文として投稿されることを期待しております。

本特集号が発行されることによって、大学教育改善・FDに関する教育工学研究の知見がまとめられ、今後の研究と大学教育の高度化に有用になることを目指します。

1. 対象分野

- (1) 大学における授業の改善
- (2) 新しい学習観にもとづく大学授業のデザイン・実践・評価
- (3) FDのための具体的な実践（公開授業、教員研修など）のデザイン・実践・評価
- (4) 学生（TA・SA）を活用した授業改善
- (5) 大学におけるカリキュラムデザイン
- (6) ICTを活用したFD
- (7) 組織的なFDのデザイン・効果
- (8) 大学間ネットワークの役割・効果
- (9) 学問分野別の教育の質保証に関する取り組み
- (10) その他の「大学教育の改善・FD」に関する理論・手法・システム開発・実践研究など

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します。それぞれの論文種別については、投稿規定をご覧ください。論文の査読は、通常の論文誌の場合と同じです。ただし、査読は2回限りとし、編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。なお、本特集号の対象分野外の論文が投稿された場合は、一般論文として扱うこととなりますので、あらかじめご了承ください。

なお、特集号編集委員会では、本特集号のテーマの特徴から、大学における教育改善・FDに関する実践を「教育実践研究論文」、あるいは「資料」の条件を満たすようにまとめ、積極的に投稿していただくことを期待しています。

3. 論文投稿締め切り日 (2012年11月発行予定)

投稿原稿を2月8日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月15日までは、論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り (電子投稿) : 2012年02月08日 (水)

最終原稿提出締め切り (電子投稿) : 2012年02月15日 (水)

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿してください。郵送による投稿は受け付けないことになりました。

5. 問合せ先

日本教育工学会事務局 電子メール : tokushu2012@jset.gr.jp, Tel/Fax : 03-5740-9505

6. 特集号編集委員会

吉崎静夫 (日本女子大学) 一委員長
鈴木克明 (熊本大学) 一副委員長
村上正行 (京都外国語大学) 一副委員長
益子典文 (岐阜大学) 一幹事
山田政寛 (金沢大学) 一幹事
赤倉貴子 (東京理科大学)
小柳和喜雄 (奈良教育大学)
加藤浩 (放送大学)
木原俊行 (大阪教育大学)
黒上晴夫 (関西大学)
澤本和子 (日本女子大学)
鈴木真理子 (滋賀大学)
田口真奈 (京都大学)
西森年寿 (大阪大学)
堀田龍也 (玉川大学)
美馬のゆり (公立はこだて未来大学)
村川雅弘 (鳴門教育大学)
山内祐平 (東京大学)

第27回通常総会・議事録

1. 日時 : 2011年06月18日 (土) 16:30~17:30
2. 場所 : 東京工業大学 大岡山キャンパス デジタル多目的ホール

3. 議事

議事に先立ち、永野会長より、東日本大震災について触れ、学会としてできることを考える必要があること、また、教育工学選書の発行についての経過報告等を含めた挨拶があった。永野会長が議長となり、議事を進行した。

1) 総会の成立について

出席者について報告があり、正会員 2,007 名中、会場出席者 55 名、委任状 244 通により、定款第 47 条に照らし、総会が成立していることの報告があった。

2) 第1号議案 「2010年度 (2010.4.1-2011.3.31) 事業報告及び収支決算承認の件」

まず、永野会長から年度会計の処理方法の変更についてパターンを提示しながら説明があった。その後、事務総括・会計担当の堀田理事より、日本教育工学会ニューズレターNo.179のP3,4の「2010年度事業報告及び収支決算」に関する議案資料に基づき説明があった。引き続き、生田監事より「4月24日に会計監査を実施し、適正かつ正確に処理されていることを確認した。」との監査報告があり、第1号議案を承認した。

3) 第2号議案 「2011年度 (2011.4.1-2012.3.31) 事業計画案及び収支予算案承認の件」

事務総括・会計担当の堀田理事より、日本教育工学会ニューズレターNo.179のP5,6の「2011年度事業計画案及び収支予算案」に関する議案資料に基づき説明があり、第2号議案を承認した。

4) 第3号議案 「会長、理事、監事、評議員の選任の件」

南部選挙管理委員会担当理事から選挙の結果およびその後の理事会の決定に従い、会長、理事、監事、評議員の選任について説明があり、第3号議案を承認した。

5) 第4号議案 「名誉会員推薦の件」

永野会長より、名誉会員の推薦について説明があり、坂元 昂氏、水越敏行氏、清水康敬氏、西之園晴夫氏の4名を名誉会員とすることを承認した。

第13期第17回/第14期第1回理事・評議員会（合同）議事録

日時：平成23年06月18日（土）11:00～12:00

場所：東京工業大学 大岡山キャンパス 第一食堂 2階

出席：

(14期理事)永野和男会長、山西潤一副会長、永岡慶三副会長、赤堀侃司、小柳和喜雄、久保田賢一、清水康敬、鈴木克明、中原淳、中山実、南部昌敏、東原義訓、前迫孝憲、美馬のゆり、室田真男、矢野米雄、山内祐平、吉崎静夫

(14期評議員)稲垣忠、木原俊行、向後千春、園屋高志、高橋純、西森年寿、野中陽一、堀田龍也、村上正行、森田裕介

(14期監事)生田孝至、近藤勲

(13期理事)澤本和子 (13期評議員)黒田卓、長谷川元洋

1. 第13期第16回議事録を承認した。

2. 会員の移動について承認した。

3. 経費執行について

各委員会の経費の取扱いを定めた「日本教育工学会の理事会および各種委員会の予算による経費の執行に関する申し合わせ(案)」の提案があり、これを承認した。

4. 今後の学会の活動について

永野会長から、第14期の役員構成について説明があった。

評議員、新任理事から意見があった。

副会長から継続して会長を補佐したい旨、話があった。

監事から学会運営に関して意見が出された。

室田大会企画委員長から、全国大会の準備状況が報告され、広報等について依頼があった。

第14期第2回理事会・議事録

日時：平成23年07月16日（土）14:40～16:40

場所：聖心女子大学 マリアンホール1階 グリーンパーラー

出席：(理事)永野和男会長、山西潤一副会長、永岡慶三副会長、赤倉貴子、大久保昇、

小柳和喜雄、久保田賢一、清水康敬、鈴木克明、中原淳、中山実、

南部昌敏、東原義訓、前迫孝憲、美馬のゆり、室田真男、矢野米雄、

山内祐平、吉崎静夫

(監事)生田孝至、近藤勲

1. 第27回通常総会議事録、第13期第17回/第14期第1回の理事・評議員会(合同)議事録を承認した。

2. 会員の移動について承認した。

3. 各種委員会の委員承認について

以下の委員会委員について会長から提案があり、これを承認した。

・編集委員会、研究会委員会、企画委員会、広報委員会、国際交流委員会・渉外、FD セミナー実行委員会、英文HP 検討委員会

・大会実行委員会、後藤康志委員(新潟大学)を承認した。

4. 各種委員会報告について

(1). 編集委員会

清水編集長から以下の説明があり、これらを承認した。

・論文誌(一般号、特集号、ショートレター)の編集進捗状況。

・不正行為に対する対応と防止に関する規則について説明があり、これを承認した。今後、Webに掲載する予定である。

- ・英文誌の表紙デザインについて決定したこと。
 - ・研究会資料、口頭発表と論文誌内容との関連についての指摘があったので、投稿規定などに明示することにしたこと。
- (2). 研究会委員会
鈴木理事から、7月に開催した研究会の報告、11月の研究会開催について案内があった。
- (3). 企画委員会
大久保委員長から、夏の合宿開催案内について報告があった。
来年度のシンポジウム(2012年06月16日(土)予定)開催場所を確保してことが報告された。
- (4). 大会企画委員会
室田委員長から来年度大会(2012年度)を長崎大学で09月15日～17日に開催することが提案され、これを承認した。承認を得て、開催大学に正式依頼することが報告された。ワークショップは12件の応募があり、うち10件を採択した。
- (5). 顕彰委員会
赤倉委員長から、審査手続きと結果について説明があり、これを承認した。
- (6). 選挙管理
赤倉委員長から次回選挙までに、役員の改選方法や電子投票の可能性について検討する旨、報告があった。
- (7). 国際交流・渉外
近藤委員から、中国からの大会への招聘について報告があった。
日中シンポジウム(2012年06月11～12日、奈良教育大学)に開催する予定である。
- (8). FDセミナー実行委員会
美馬委員から、前年度に引き続き開催することが説明された。
- (9). 広報委員会
南部委員長から、ニューズレター181号の台割り案が示され、原稿依頼先が確認された。
- (10). 総務
永野会長から、以下について報告があった。
- ・委嘱状を役員に発行したことが説明された。
 - ・協賛承認後の扱いについて、学会Webに一定期間にわたり掲載することにした。
 - ・選書委員会では、8巻について企画を行い、内4巻については執筆依頼中である。残りの4巻についても順次、執筆依頼する予定である。以後、今年度末を締め切りとして、選書の企画案を公募し、さらに12巻程度の構成を検討し、来年度中に全20巻の発行となるようにしたい。
 - ・文部科学省科学技術振興局から文部科学大臣賞の推薦依頼が学会宛てに来ているが、締め切り間際になっていることから、今年度については見送りとした。また、来年度以降に推薦可能な研究者については、事前に準備するように周知された。

新入会員

(2011年06月15日～2011年07月12日) 32名(正会員:17名,学生会員:11名,准会員:4名)

■正会員 17名

中野 美香 (福岡工業大学)
 澤崎 敏文
 (株)ふくいコミュニケーションズ
 丹羽 時彦 (関西学院 高等部)
 山本 英次郎
 (西野学園札幌心療福祉専門学校)
 澤邊 裕子 (宮城学院女子大学)
 土橋 喜 (愛知大学)
 年森 敦子 (鎌倉女子大学)
 李 在鎬
 小林 正幸 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)
 原田 康徳 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

橋本 順一 (玉川大学)
 兼子 正勝 (電気通信大学)
 五月女 仁子 (神奈川大学)
 田中 幹人 (東北大学)
 石田 千晃 (お茶の水女子大学)
 藻谷 ゆかり
 伊藤 龍仁
 (中部学院大学短期大学部)

■学生会員 11名

岸本 暢斗 (東京工科大学大学院)
 渡辺 タケシ (青山学院大学大学院)
 Pakaporn Thisayakorn
 (東京工業大学)
 吉村 春美 (東京大学大学院)

平出 博紀 (東京電機大学理工学部)
 辻本 宣賢 (神戸大学大学院)
 浅井 千恵 (早稲田大学大学院)
 池守 樹 (東京工科大学大学院)
 洪 燕 (静岡大学大学院)
 水野 祥矢 (広島国際大学工学部)
 仲岡 俊祐 (豊橋技術科学大学)

■准会員 4名

深井 克彦 (四国学院大学)
 酒井 統康 (多治見市教育委員会)
 名木田 恵理子 (川崎医療短期大学)
 川原 圭太郎
 (麻布大学附属瀧野辺高等学校)

◎学会日誌

- ・2011年09月17日(土)～19日(月)
第27回全国大会(首都大学東京 南大沢キャンパス)
- ・2011年10月29日(土)
研究会「変動社会における教員養成と教師教育」
(島根大学)
- ・2011年12月17日(土)
研究会「地域連携と教育・学習環境」(香川大学)
- ・2012年02月18日(土)～19日(日)
冬の合宿研究会
「国際学会での発表スキルを磨くー伝わる英語発表ー」
(大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション)
- ・2012年03月03日(土)
研究会「情報モラル教育の実践」(山口大学)

◎国際会議の案内

2011年

IMETC 2011

<http://imetc2011.yolasite.com/>
(10/16-19, Kuantan, Malaysia)

E-Learn 2011

<http://www.aace.org/conf/eLearn/>
(10/17-21, Honolulu, Hawaii)

MLearn 2011

<http://www.mlearn2011.org/>
(10/19-21, Tokyo, Japan)

WALS 2011

<http://www.wals2011.com/>
(11/26-28, Tokyo, Japan)

ICCE 2011

<http://www.nectec.or.th/icce2011/>
(11/28-12/02, Chiang Mai, Thailand)

2012年

SITE 2012

<http://site.aace.org/conf/>
(03/05-09, Austin, TX, USA)

ED-MEDIA 2012

<http://aace.org/conf/edmedia/>
(06/26-29, Denver, CO, USA)

お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp
- 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2011@jset.gr.jp
- 合宿研究会やシンポジウムの開催について
のお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp
- その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

編集長：清水 康敬(東京工業大学)
担当副会長：永岡 慶三(早稲田大学)
広報委員長：南部 昌敏(上越教育大学)
副委員長：矢野 米雄(徳島大学)
監事：高橋 純(富山大学)
委員：永田 智子(兵庫教育大学)
E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●

日本教育工学会事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル
TEL&FAX 03-5740-9505
E-mail：office@jset.gr.jp
<http://www.jset.gr.jp>
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニュースレター
No. 181
2011年9月5日

発行人●会長 永野和男(聖心女子大学)